

## 令和4年2月議会で代表質問をしました

### 保育施設に対して地域の方々の理解促進につとめる努力を!!

Q:保育施設・放課後児童クラブを迷惑施設と誤認している方もいることから、理解促進へのさらなる努力が必要であると考えますが、市の取り組みは?

A:園の行事への参加など**地域の方々との交流の機会**を設け、良好な関係の構築に努めています。民間保育所には世代間交流や異年齢児交流などの地域活動に係る費用を助成し、地域の中で子どもたちが成長していくように支援してまいります。

### JR川越線複線化実現への協議会の進捗状況について

Q:第5回「JR川越線荒川橋りょうの複線化仕様での架換えに関する協議会」の内容と結果を伺う。今後の複線化への市の考えは?

A:荒川第2第3調節池事業への影響などを検討した結果、「単線仕様で架換え、複線化時には現在の位置に単線構造の橋りょうを架ける案」が評価が高くなりました。来年度は橋りょうを複線仕様にした場合の追加費用等について調査をし、引き続き協議を行ってまいります。市としては複線化実現の検討の目安となる利用人員に近づくよう、定住人口の増加を図ってまいります。

### 今後のさらなる感染症の対応に備えるため対策の強化を!!

Q:医療の逼迫や今後の新興感染症が起きた時の対応に備えるため、高度な専門的知識と実践力をもつ**感染症認定看護師**を増やし、感染対策を強化していくことが必要と考えるが、市の対応については?

A:市立病院においては、感染管理認定看護師を育成し、体制の強化を図ります。

市においても感染症対策業務に従事できる専門職の育成につとめてまいります。

### さいたま市の農業を持続可能な農業に!!

Q:農業を継続できない農家や農地を管理できない方々へのサポート体制の拡充がもためられているが、どのような方策を行っているのか?

A:農地マッチング制度は年々件数が増加しています。GPS付トラクター導入補助や農業法人に高性能ビニールハウスの導入を支援していく予定です。また、遊休農地の解消や農地利用の集積・集約化はタブレットで現地調査をするシステムを稼働し、効率化をはかります。耕作指導、農地利用のさらなるマッチングが図られるよう、最適化を促進してまいります。



### HPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンの積極的勧奨の確実な取り組みを!!

Q:令和4年度から**HPVワクチンの積極的勧奨再開**とキャッチアップ接種の実施が行われるが、確実に接種できる体制と丁寧な相談体制を望む。市の対応は?

A:3月までに小学校5年生から高校1年生の女子にワクチンの接種案内を送付します。キャッチアップ接種(積極的な勧奨の控えにより接種機会を逃した方への接種)は迅速に実施できるよう準備しています。さらに正確な情報発信と相談体制の充実をはかってまいります。(※HPVワクチンは主に女性の子宮頸がん予防のワクチンです)

## 令和4年度予算 (一部)

### 令和4年度当初予算の規模 過去最大

一般会計 6,373億円(+255億円)  
特別会計 3,237億円(+48億円)  
企業会計 1,305億円(+56億円)  
全会計 1兆916億円(+359億円)

#### 特徴

【歳入】 人口増加による市税収入増  
【歳出】 コロナ関連事業 扶助費の増

#### 予算の特徴①

##### コロナ感染症対策 (主なもの)

当初予算総額 180億4740万円  
ワクチン接種体制の拡大  
指定訪問看護ステーションへの補助(新規)  
酸素濃縮装置の整備(新規)  
自宅療養者への相談・食料品配送

#### 予算の特徴②

##### 自然災害への対策

治水対策施設の整備(拡大)  
市立中学校の体育館への空調機設置(拡大)  
罹災証明書発行業務のデジタル化(拡大)  
橋りょうの耐震化

#### 予算の特徴③

##### さいたま市らしさの深化

大宮駅GCS化構想の推進(拡大)  
ゼロカーボンシティ(脱炭素社会)実現のまちづくり(拡大)  
「さいたまスポーツシューレ」の活用促進(拡大)  
農業DXの推進(拡大)

#### 予算の特徴④

##### 誰一人取り残さない支援の充実

ケアラー・ヤングケアラーの普及啓発(新規)  
ひとり親家庭への訪問相談(新規)  
不登校児童生活支援センターの設置(新規)  
送迎保育ステーションの整備  
多子世帯への子育てヘルパー派遣の充実(拡大)

#### 予算の特徴④(続き)

放課後児童クラブの充実(拡大)  
障がい者支援センターの充実  
医療的ケア児受け入れ(拡大)  
高齢者見守り活動の支援(拡大)  
自治会電子回覧板モデル事業の実施(新規)

## 予算委員会での質問

Q:**新生児聴覚検査**費用の助成が始まったが、検査後のフォロー体制を確実にし必要な方を早期治療に結びつけることが重要と考えるが、市の対応を伺う。

A:令和3年4月から12月間で検査の実施率は97.5%であり、要治療の方は26人です。精密検査となった方には各区の保健センターの担当保健師が確認し、相談対応しています。また医療機関へはひまわり学園の言語聴覚士の同行訪問を行っています。

⇒聴覚障害への治療は早期に開始した方が効果が高く、全数確実にフォローすることを要望しました。

Q:**看護師の処遇改善**が国から示されたが、市では対応をしているのか。

A:市の看護師の給与水準は民間を上回っており、行う理由が見当たらない。

⇒市では保育士にも処遇改善を行わない方針であり、このような市の答弁に対して、今回の処遇改善は仕事内容に比べて給与水準が長く抑えられてきた職種に国が改善を図るといふものであり、行政の責任ある立場のさいたま市が積極的に取り入れ、民間の処遇改善を後押しする必要があると思われる、今後も要望を行ってまいります。

## 文教委員会での質問

Q:子どもたちの**通学路の安全対策**について伺う。

A:全ての学校で毎年安全点検を実施しています。防犯カメラやカーブミラーの設置などすぐに対応できるところは行い、対応できないところは、警察、道路管理者と教育委員会で合同点検をし、対応をしています。また、子どもたちへは安全な暮らしの単元で交通安全の授業を行っています。子ども自転車安全運転免許制度も行ってまいります。

⇒子どもたちが通る通学路の安全対策は第一優先で対応するように要望を続けてまいります。